



作品名：「霊峰富士」(いきいき!かりゆし美術展【特別展】)
 作成者：金城 幸子さん(南城市)

目次

- ② **特別企画** 沖縄県社会福祉協議会創立70周年記念 第64回沖縄県社会福祉大会「特別記念座談会」(前編)(後編)を開催しました
- ⑥ 会長挨拶～沖縄県社協71年目がスタート、沖縄県共募50周年を迎えて(祝 本土復帰50周年)
- ⑦ 災害ボランティアセンター運営者研修を開催しました、災害時における協力体制に関する協定を締結
- ⑧ **特集** かりゆし長寿大学校 オンライン特別講義をスタート～高齢者を対象としたオンライン講義開催に向けて～、令和3年度かりゆし長寿大学校学生募集中止のお知らせ 等
- ⑩ シリーズ記事ふくし&〇〇～ふくし&歴史～「記念企画 沖縄県社協創立70年～県社協・広報活動の歴史をたどる(後編)～」
- ⑪ あなたも民生委員・児童委員として地域で活動してみませんか?、緊急小口資金等特例貸付の据置期間延長について
- ⑫ 福祉・介護職員の福利厚生はソウェルクラブにおまかせください(ソウェルクラブのご案内)
- ⑬ 沖縄県共同募金会へ寄せられたご寄付の団体紹介、「令和3年度NHK歳末たすけあい募金」30施設団体へ配分、令和5年度事業(一部令和4年度)に要する「民間福祉資金要望調書」の受付について
- ⑬ 図書館の紹介、寄付者芳名、表紙の作者のご紹介 他

🍀 広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。

記念 第64回沖縄県社会福祉大会 の歴史を振り返り、今後を見据える」

念・第64回沖縄県社会福祉大会(主催：沖縄県、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県共同

社会福祉の歴史を振り返りながら意見を交わし、今後の展開につなげていくことを目的と
県社協ホームページで配信されるとともに、県社協創立70周年記念誌に収められます。



写真右▶

(前列中心)呉屋氏、(前列右)富山氏、(前列左)保良氏、
(後列右)山内氏、(後列左)県社協嘉陽 常務理事



【前編】
社協活動等の変遷から見る沖縄の社会福祉

《出席者》

■呉屋清徳氏(沖縄県社会福祉協議会元副会長、沖縄県共同募金会元副会長、沖縄県老人クラブ連合会元副会長)

■富山光枝氏(特定非営利活動法人幸せの魔法つ会代表、旧勝連町社会福祉協議会元福祉活動専門員、旧勝連町議会元議員、琉球大学元非常勤講師)

■保良昌徳氏(日本ソーシャルワーカー協会会長、沖縄国際大学総合文化学部元学部長、特別養護老人ホーム沖縄偕生園元生活指導員、転生園元養護課長)

■山内良章氏(沖縄県共同募金会常務理事、沖縄県社会福祉事業共済会理事長、沖縄県社会福祉協議会元事務局長)

《フアンリテーター》

■嘉陽孝治(沖縄県社会福祉協議会常務理事)

第一部「戦後の沖縄の社会福祉と県社協を語る」

第一部では、呉屋清徳氏を中心に、戦後の沖縄の社会福祉の状況等が語られました。

昭和26年に群島社協(沖縄県社協の前身)が設立した当時の沖縄は、公衆衛生の強化が大きな柱であったこと、ララやリバック等の物資支給が唯一の福祉的な支援であったこと、それら物資が沖縄の住民の生活において不可欠であったことが明らかとなりました。

富山光枝氏は、「100%の健常者もいなければ、100%の障害者もいなかった」と、記憶に残る自身の家屋の縁側の光景を伝え、現在の子どもの食堂やデイサービスのような場が自然に発生していたと当時の状況を伝えました。また、その当時にあったハンセン病患者への差別問題に対して、疑念や強い怒りを抱いていたと訴えました。

保良昌徳氏からは、戦後の沖縄の社会福祉を築いてきた関係者等への聞き取りを通して知り得た、「厚生

員」と呼ばれた方達の役割等、様々な社会事業(福祉)の出来事が話されました。

山内良章氏は、幼い頃に同居していた祖父母が地域の人に食事を分けていたエピソードに触れ、「ヒーサソラー、チンクシレー(寒がっていれば、着物を着せてあげなさい)」「ヤーサソラー、ムヌキレー(ひもじくしていれば、食べ物をおげなさい)」と、物資が不足している状態でも分かち合おうとする、助け合いの文化が沖縄に根付いていたことを述べました。

そのほか、沖縄での共同募金運動の始まりや、南方同胞援護会、米国婦人クラブ等、当時の福祉を支えた資金援助に関すること、さらに本会が中心となって進めた沖縄での医療保険制度改善の動き、全国で展開された「沖縄の心臓疾患をもつ子ども達への支援活動」、老齡福祉年金獲得運動等、各出席者から実体験を踏まえた出来事が語られました。

第一部の最後には、呉屋

沖縄県社会福祉協議会創立70周年 特別記念座談会「沖縄の社会福祉」

令和3年11月2日、5日の両日、「沖縄県社会福祉協議会(沖縄県社協)創立70周年記念募金会」の特別企画として座談会(前編・後編)が開催されました。

座談会は、前編・後編の2部構成で、様々な関係者とともに社協活動を中心に沖縄のしています。本号では、4頁にわたり、座談会の概要を紹介しします。なお、座談会の内容は、

氏から本会元常務理事故親川富蔵氏とのエピソードが紹介され、戦後から復帰前までの沖縄の福祉の状況を回顧しました。



第二部では、はじめに呉屋氏から復帰対策協議会等の復帰直後の沖縄の福祉の状況が述べられ、その後、出席者それぞれが、復帰以降の自身の福祉活動や実践等を振り返りました。

富山氏は、旧勝連町社協で取り組んだ給食サービス(友愛訪問事業)と、そこで関わった「地域で孤立していたある高齢者」とその方を取り巻くボランティアや地域住民の変化を

第二部「復帰後の福祉活動・取り組みを語る」

語り、住民一人ひとりへの支援を通じた地域支援のあり方を示しました。また、地域の環境問題に取り組んだボランティア活動や、地域の子ども達による「青空グループ」とハンセン病患者入所施設「愛楽園」との関わり等、自身の実践とその成果を語りました。

続いて山内氏から、県社協への入職のきっかけや、県社協在職時に担当したボランティア・福祉教育、市町村社協への支援、予算対策協議会での取り組みが話されました。特に、在宅福祉サービスや介護保険制度が導入された当時の県内の福祉関係者の状況と、その支援についても具体的な話があり、県社協の役割や活動についても語られました。

保良氏からは、自身が福祉の現場に入職した当初に抱いた、福祉の「専門性」に関する疑問や問題意識、その疑問からソーシャルワーカーを学ぶに至った経緯が話されました。沖縄県ソーシ

ヤルワーカー協会設立や、社会福祉士及び介護福祉士の資格法設立のいきさつ、自身が「沖縄で福祉の人材養成の仕組み」をつくろうと決意し、行動したことを振り返りました。そして、介護保険制度導入以降、福祉系養成機関は厳しい状況に置かれていることに危機感を示しました。



▲感染対策を講じながら実施された座談会録画の一場面。(3時間半という長時間にわたる撮影を実施)

第三部「福祉関係者へ期待する」と

第三部は、一・二部を踏まえ、出席者から福祉関係者へメッセージが送られました。その一部を紹介します。

【呉屋氏】地域に根ざした助け合いは、沖縄が全国に誇る「福祉文化」。「社協」、「地域福祉」の視点から追求する姿勢をもつこと。

【富山氏】制度の中の真空地帯をどう解決するか、「個々の対応」に目を向けることが大切。「100」の理論より「1」の実践を目指して。

【保良氏】まずは沖縄で起きたこと、現状、根底的なことを一つひとつ知ること。ソーシャルワークの視点や技術をもつてほしい。

【山内氏】創意工夫を凝らし、必要だと思ふことに知恵を出して積極的に取り組む。それが「社協の醍醐味」。

最後に、進行を務めた県社協・嘉陽常務理事から出席者への御礼と本県の社会福祉の今後の発展を祈念する言葉が述べられ、3時間半にわたる会を閉じました。



写真右▶

(前列中心)島村氏、(前列右)嘉数氏、
(前列左)濱里氏、(後列右)金城氏、
(後列中心)兼浜氏、(後列左)県社協久根次地域福祉部長



《出席者》

〈コーディネーター〉

■島村聡氏(沖縄大学人文学部福祉文化学科学教授、沖縄大学地域研究所所長)

〈パネリスト〉

■嘉数よしの氏(沖縄タイムス社編集局学芸部くらし班記者)

■兼浜克弥氏(沖縄県精神保健福祉会連合会理事、宜野湾市地域生活支援センターはぴわん施設長)

■金城隆一氏(特定非営利活動法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい代表理事)

■濱里正史氏(公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会 沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター総合コーディネーター)

《進行役》

■久根次薫(沖縄県社会福祉協議会地域福祉部長)

各分野における「社会的孤立」の現状や課題とは

座談会後編では、はじめに各パネリストからそれぞれの分野での社会的孤立に関する現状や課題について共有しました。

嘉数よしの氏は、新聞記者の立場から、特に「ヤングケアラー」「ひきこもり」「アルコール依存症」等を抱える当事者等への取材を通して、生きづらさを誰にも言えずに状態が深刻化し、「自己責任」として本人が背負っている現状が話されました。

また、これらの課題が制度・施策で定義付けされたことで、当事者も課題認識できるようになった反面、支援体制は今だ不十分であると指摘されました。

兼浜克弥氏からは、県内の精神患者が増加している現状や、退院後の地域生活への移行に係るサービス利用が低調な理由、その背景等をお話いただきました。

自身も当事者であったことから、これまでの体験を踏まえ、「これらの根本には差別・偏見という課題が根深く、多くの方々に精神疾患が正しく理解されていないこと」があると指摘されました。

金城隆一氏は、コロナ禍で社会的孤立が深刻化し、ひきこもりや不登校、子ども等社会的に弱い立場にある者への影響が大きい等の課題を伝えました。

また、子どもの貧困対策については、居場所等への支援の輪は広がった反面、子どもを支援対象者として捉えるだけでなく、「社会の構成員の一人」であり、「子どもの権利」の視点で育てていく仕組みが大切であると訴えました。

濱里正史氏は、これまでの生活困窮者支援に長らく携わった経験から、コロナ禍で、人が健康で文化的な生活を送るために必要な「衣食住の確保」が十分でない

かったことが浮き彫りになったと指摘されました。

また、生活困窮者に対する食料支援が社会課題として認知され、「フードバンク」の取り組みも注目されたほか、自立生活の支援にあっては、車などの移動手段の確保やスマートフォンなどの通信手段の整備等の必要性を話しました。

その後、コーディネーターの島村聡氏は、各パネリストの報告に共通することとして、「差別や偏見の問題で、これまでも取り組んでいるが取り除けていない」ことを指摘し、「本人を中心に物事を捉え、社会がその人に合わせていく」社会的包摂の考え方をしっかりと福祉文化として根付かせる必要がある」と社協への期待を述べました。



これからの沖縄の福祉に必要な支援や視点とは

座談会の後半部分は、社会的孤立の課題解決に向けて、これからの沖縄の福祉に必要な支援や視点、社協に対して期待すること等をお話いただきました。

嘉数よしの氏は、コロナ禍で「差別・偏見」が助長された現状を述べ、誰もが些細なことで苦境に立たされやすくなる状況があり、様々な社会課題に対して、「自分身」として捉える風潮が県内で広がってほしいと話しました。

また支援者だけでは対応の限界を指摘し、地域住民同士がお互い支え合える体制の構築を期待したいとお話いただきました。

兼浜克弥氏は、精神疾患に関することを義務教育で学べるような環境づくりの必要性を訴えました。

また、精神疾患は誰もがなり得る病気であるとし、「自分事として捉えるきっかけとして、社協が実施する『福祉教育』と連動して取り組みたい。大切な人や家

族が、心の病・精神疾患になった時に寄り添える人を育むことができると思う」と抱負を述べました。

金城隆一氏は、貧困の子どもたちを特別に限定して支援するのではなく、社会全体で子どもたちを育てていく視点が必要であると指摘されました。

また、社協に対して、「福祉の縦割り問題」が解消できるよう、分野を問わず関係機関・団体との連携・協働の旗振り役を担うことや、住民が地域の生活課題の解決に向け、参画できるようにコーディネート機能の役割を發揮することを期待したいと述べました。

濱里正史氏は、制度の狭間に置かれた課題への対応策を民間主導で積極的に取り組むべきだと述べ、その舵取り役を社協に担っていただきたいとお話いただきました。

また、社協には、「コロナ禍の教訓と新たな取り組み」の検証を行い、コロナ後の社会のあり方を福祉的な視点から、支援や実践等に取り組んでいただきたいと

話しました。

各パネリストからの意見・提案を踏まえ、島村聡氏からは、「社協の真骨頂である福祉教育実践を更に推進し、社協が学校や地域に入って動かしたり、カリキュラムの作成などに取り組んでいただきたい」と述べました。

また、「『ヤングケアラー』の問題はとても良いきっかけになると感じており、子どもたちに『みんなの中にこういう子もいるよ』だから助け合いが必要なんだよ」という『社会的包摂』を学ぶ機会を社協が福祉教育の実践を通してつくってほしい」と期待を述べました。

最後に、県社協地域福祉部長の久根次から、「今日の座談会において提案いただいた内容を踏まえ、今回の座談会のテーマでもある『誰一人取り残さない、沖縄らしいこれからの福祉』に向けて、各関係機関・団体ともなお一層の連携・協働して、THANKS（サンクス）運動に取り組んでいきたい。また、社協としての使命や役割を發揮することを

通じて、「沖縄らしい福祉文化の形成」につなげていきたい」と述べ、座談会後編の会を閉じました。



↑
パネリストたちから沖縄の福祉課題の実態や必要な支援が語られた



■沖縄県社協・創立70周年記念 第64回沖縄県社会福祉大会 特別記念座談会(動画)を配信します

4頁にわたって座談会の概要を紹介してきましたが、県社協ホームページにて、動画配信を行います。是非ご覧ください。

※詳しくは、ホームページをご覧ください。

■<https://www.okishakyo.or.jp/>

■『県社協70年のあゆみ—この20年を中心に—』を発刊します

閲覧を希望される方は、県社協・総務企画部までお問い合わせください。



▲70周年記念誌(イメージ)

※詳しくは、県社協・総務企画部まで
TEL:098-887-2000

沖繩県社協71年目がスタート、 沖繩県共募創立50周年を迎えて《祝 本土復帰50周年》

会長あいさつ



社会福祉法人
沖繩県社会福祉協議会
社会福祉法人
沖繩県共同募金会
会長 湧川 昌秀

新たな年を迎えるにあたり御挨拶を申し上げます。

沖繩県社会福祉協議会(以下沖繩県社協)の前身である「沖繩群島社会福祉協議会(以下群島社協)」が1951(昭和26)年11月に設立され、70年の歳月が流れました。

こうして今年71年目を迎えられることは、多くの福祉関係者や県民の皆様の御協力・御支援によるものと深く感謝申し上げます。

群島社協が設立された当時の沖繩は、戦後の爪痕が深く残り、誰もが貧困状態で無償配給がなされていた時代から、賃金制度が再開し、自分たちの手で生活をつくりあげる時代へと移り変わる時期でもありました。

また、他の都道府県が地域の社協を組織化する流れと時を同じくして、米国統治下という特殊な制約のもと、独自で群島社協の成立をみたことは、当時の関係者の方々の御尽力の賜物だと、頭が下がる思いであります。

さらに、群島社協では、設立の翌年から共同募金運動に取り組み、本土復帰の前年まで続けました。1972(昭和47)年5月15日の本土復帰に伴い、「社会福祉法人沖繩県共同募金会(以下沖繩県共募)」として新た

に再スタートし、今年で法人設立50周年を迎えます。復帰前から取り組んできた共同募金の趣旨を受け継ぎながら、全国や県内市町村の関係者との連携の下、住民参加の助け合い運動を展開しております。

「本土復帰50年」の節目を迎える沖繩では、今なお、制度の狭間にある福祉・生活課題が顕在化しております。さらに、今般の新型コロナウイルス感染症の影響等も相まって、生活困窮や社会的孤立といった問題の深刻化が危惧されております。

そのような中、私達福祉関係者は、SDGsの基本理念「誰一人取り残さない(Leave no one behind)」を心掛け、県民一人ひとりが明るい未来を築ける優しい社会の実現に向けて、ともに行動していくことが求められております。

沖繩県社協・沖繩県共募では、関係機関・団体の皆様と共に、本県の社会福祉課題の解決に向けて尽力する所存でございます。関係者の皆様には、引き続き御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本県のますますの発展と県民皆様の御健勝・御多幸を祈念申し上げ、私からのごあいさつといたします。

令和4年1月吉日

令和4年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

新型コロナウイルスを含む特定感染症に新たな補償が追加されました!

NEW 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償



団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ21-12224 から抜粋)

災害ボランティアセンター運営者研修会を開催しました

県社協では、11月22日に市町村社協職員や、災害時に備えた取り組みを進めるにあたって連携している関係機関・団体の職員等を対象に、「令和3年度 災害ボランティアセンター運営者研修会」を開催しました。

今回の研修会は、①市町村社協が地元関係者と共に災害時に円滑に協働した災害ボランティアセンター（以下「災害ボラセン」）の設置・運営を目指す意義等について理解を深めるとともに、②平時から地元関係者と連携した災害対策を含めた社協活動や地域福祉活動の取り組み促進へ繋げることを目的としました。

コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do の乗原英文代表より、「地域と協働した災害福祉支援体制の構築を目指して」と「災害ボランティアセンター」についてと題して、講話がなされました。この中で乗

原代表からは、これまでの被災地支援での経験等をもとに、社協が災害福祉支援活動に取り組む意義と役割や、災害福祉支援活動が平時の地域福祉活動の延長線上にあるという視点等について話がありました。また、災害時の備えに向けた平時からの取り組みについて考えるワークが行われ、参加者にとっては具体的に今後の活動について検討する機会になりました。

参加者からは「災害時は特別なことではなく、普段の支援の延長線上に災害ボランティアセンターがあるというのが印象に残った」、「日頃からの見守りや声かけ等の地域づくりを通して、平時から住民に寄り添った活動を大事にしたいと思った」等の声が聞かれました。

近年、日本において地震や豪雨による大規模災害が発生し、被災地の生活復旧などを目的とした災害ボランティアの役割が日増しに大きくなっています。本県においては、コロナ禍や地理的特性から、大規模災害が発

生した場合、県外からの人的・物的支援がすぐには届かない等の状況が想定されています。

そのような状況下で社協等が災害ボラセンを含めた災害時支援に対応するためには、地元関係者と協働した災害ボラセンを設置・運営する必要があり、平時より地域関係者とのネットワークを築き、災害時福祉支援体制を構築し強化していく必要があります。

県社協では、引き続き災害ボラセン運営者の養成をはじめ、市町村社協や関係機関と連携し、災害時支援の強化へ向けた取り組みを進めていきます。



FEEL Doの乗原英文代表



災害時における協力体制に関する協定を締結

11月24日、県総合福祉センターにて、県社協と公益社団法人日本青年会議所沖縄ブロック協議会（以下「沖縄ブロック協議会」）は「災害時における協力体制に関する協定締結式」にて、県社協が運営する災害ボランティアセンター（以下「災害ボラセン」）支援に関する協定を締結しました。

協定には、県内で災害が発生した際、県社協から要請を受けた沖縄ブロック協議会が、災害ボラセンの設置・運営の協力や、人的・物的支援、被災者等を対象としたボランティア活動への参加協力などを行うことが盛り込まれています。

また、平時から被災者支援に関する研修、訓練等に相互に参画するよう努め、県社協が運営する「災害時における災害ボランティアセンター運営に関する関係機関連絡会」にて、連携した取り組みを強化していきます。

締結式で県社協湧川昌秀会長は、「この度の協定締結を契機に、災害時に備えた支援体制が強化される」と期待の言葉を述べました。

また、沖縄ブロック協議会の新里祐樹会長は、「県内の社会福祉協議会との連携を強化し、災害時に我々の強みを活かした被災者支援に取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

そのほか、来賓挨拶で県子ども生活福祉部名渡山晶子部長（代読・座安治生活企画統括監）は、「県社協と沖縄ブロック協議会との協定締結は、本県の災害時の支援体制の充実・強化が図られ、大変心強いものである」と感謝の言葉を述べました。





本会が運営する「沖縄県かりゆし長寿大学校」は、新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続の休校を余儀なくされました。

こうした状況下においても高齢者を対象とした学習の場の提供や地域活動の担い手養成を図るため、今年度は動画配信を用いて、「オンライン特別講義」を開催しました。

初めに、令和2年度に実施した「かりゆし長寿大学校卒業生(29期生)アンケート」をもとに、オンライン特別講義のテーマ及び講師について、検討しました。

その結果、第1回テーマ「歴史Ⅱ上里隆史氏」、第2回テーマ「医療Ⅱ嘉数与利子氏」、第3回テーマ「健康と食Ⅱ宮本晋一氏・喜屋武ゆりか氏」、第4回テーマ「文化Ⅱ眞嗣一氏」に決定しました。

6月には、かりゆし長寿大

学校入学予定者を対象に「ネット環境、パソコンやスマートフォンなどの機器の所有に関するアンケート調査」を実施しました。調査の結果、学生のうち88%の方がオンライン機器を持っていることがわかりました。また、オンライン機器を持っていない方の中では、機器の操作に不安な方には、オンライン特別講義を開始する前に、「配信動画を観る方法」を学ぶための「簡易スマホ教室」を開催しました。(37名参加)

ネット環境やパソコン・スマートフォン等の機器を持っていない方には、『新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン』を遵守し、『集合型』での講義を開催し、受講できる環境をつくりました。(12名参加)

簡易スマホ教室

【会場】県総合福祉センター

内 東棟5階教室

【内容】動画を観る方法

【講師】房前三男氏 那覇市

シルバー人材センター(会員)

【日程】10月12日・14日

講師の房前三男氏は、日頃

から高齢者の方を対象に「シニア向けにスマホ教室」を積極的に実施しています。主にアンドロイド端末を中心に、高齢者の方でも簡単に楽しめるスマートフォンを使えるようご教示いただきました。受講者からは、「QRコードを使用して、動画サイトを開くことができる等、なるほど」と思い、目からうろこでした。「高齢になってこのような講義を設けていただけて感謝したいです」「これからも有意義な講義の機会を設けて下さると、私もチャレンジしたいと思います」という声が寄せられました。



簡易スマホ教室の様子

第1回オンライン特別講義

【講義テーマ】「琉球ウイルス感染症と医療の歴史」

【講師】上里隆史氏(琉球歴史

研究家)
【配信期日】10月19日～25日
【受講者数】78名

「ウイルス感染症と医療の歴史」第一部では、琉球独自の歴史の流れの中で、尚巴志王を中心とした琉球の貿易や琉球医学の始祖など歴史上の人物が紹介されました。第二部では、現在のコロナウイルス感染症の流行に関連して、琉球王国時代に海外との交流が盛んな頃、外国から持ち込まれるウイルスの感染の流行(天然痘等)の感染防止についてどのような対策を講じてきたのか、事例を通して詳しくご教示いただきました。

集合型講義に参加した受講者からは、「画面が大きく見やすくよかった」との声や「高齢者の方には興味深い沖縄の歴史をもっと知りたい」という声があり、集中して視聴していました。また、「沖縄の医療の歴史の講義を初めて受けて先人たちの御苦労、活躍に頭が下がる思いがしました」「感染症対策について琉球王国が理論に基づき、現代の考え方と変わらない対応をしたことに感銘

を受けた」などの感想がありました。



第1回集合型オンライン特別講座の様子

第2回オンライン特別講義

【講義テーマ】「長寿の秘訣は、笑いにあり」

【講師】嘉数世利子氏(グルー

プホームひめゆり代表)

【配信日】11月23日～29日

【受講者数】74名

「長寿の秘訣は、笑いにあり」では、笑いの効能について、①ストレス解消②免疫力が高まる③脳の働きが活性化し認知症予防になる④痛みの軽減⑤血行促進と心臓病の予防に効果大⑥アレルギー(アトピー)を改善させる⑦リウマチ・糖尿病の治療に効果大⑧若返り(アンチエイジング)⑨プラス思考になり人生が前向きになる⑩人間関係が良くなるとい

う10の項目を掲げてご教示
いただきました。また、実践
では、①手拍子と掛け声②深
呼吸③子どもに返るおまじ
ない④笑いの体操の4つの
ステップで笑いヨガを行い
ました。

受講者からは、「若い時に比
べて笑う事が少なくなつた
と感じました」「改めて、笑い
の効能を認識しました」「作り
笑いでも効果があることを
始めて知りました」等のコメ
ントがありました。受講者は、
元気いっぱい笑いヨガを実
践して、楽しい雰囲気の中、講
義に参加していました。



第2回集合型オンライン特別講義の様子

第3回オンライン特別講義

【講義テーマ①】コロナ禍に
負けない健康づくり

【講師】宮本晋一氏(沖縄大学
教授)

【講義テーマ②】コロナ禍で
のおうちごはん

【講師】喜屋武ゆりか氏(沖縄
大学講師)

【配信日】12月21日～27日

【対象】かりゆし長寿大学校
入学予定者でオンライン特
別講義を受講希望者

※北部3村(大宜味村・国頭
村・東村)の高齢者



第3回オンライン特別講義収録の様子

『コロナ禍に負けない健康
づくり』では、階段の上り下
りや歩幅を大きく広げて歩
くことの効果、椅子に座った
まま足や腕を上げる等家の
中や買い物途中中でできる簡
単キッチンフィットネスを
動画にてご紹介いただきま
した。

また、新たに「フレイル(高
齢による衰弱)」についてご
教示いただきました。フレイ
ル予防には、「人とのつなが
り」が重要で、「文化活動」や

「ボランティア・地域活動」に
参加することをお勧めして
いました。

後半は、コロナ禍に負けな
い健康づくりとして、①私た
ちの心と体は食べた物から
作られる②食は喜び・生きる
源③簡単な調理を続けまし
ょう④楽しみながら続けま
しょうと食の大切さを伝え
ていました。その中で、お惣
菜や加工食品は便利ですが、
お家で生鮮食品から食事を
作ることが糖分・塩分・脂質
の摂りすぎを防ぐことがで
き、自分で調理することが認
知症予防にもつながると話
しがありました。最後に、『簡
単元気ご飯』『電子レンジで
簡単に作れるレシピ』を動画
にて紹介しました。

第4回オンライン特別講義

【講義テーマ】沖縄の世界文
化遺産について

【講師】當眞嗣一氏(ブスク研
究所主宰)

【配信日】令和4年1月18日
～24日

【対象】かりゆし長寿大学校
入学予定者でオンライン特
別講義を受講希望者
(※一般聴講生)

沖縄の世界文化遺産につ
いて、沖縄県の世界遺産の登
録までの経緯や、5つのグス
クと4つの関連遺産群があ
り、それぞれのグスクの14世
紀～18世紀の琉球の歴史を
交えてお話をいただきました。
後半には、9つの遺産が
選定された理由や登録基準
の内容についてエピソード
を交えながら説明がありま
した。



第4回オンライン特別講義収録の様子

「お知らせ」かりゆし長寿 大学校学生募集中止に ついて

「沖縄県かりゆし長寿大学
校」では、今般のコロナ禍の
影響により令和2年度から
2年間大学校の全ての講義
や行事等の中止が余儀なく
されました。そこで、令和4
年度は上記の入学予定者を
優先入学とする特例措置を
講じるため、新たな学生募集

は行わないことといたしま
す。何卒ご理解くださいまし
ようお願いします。

なお、令和5年度の学生募
集につきましては、令和5年
2月頃に本会ホームページ
や広報紙等でご案内いたし
ます。

令和4年度かりゆし 長寿大学校定員及び講義 時間の変更について

「令和4年度かりゆし長寿
大学校の運営は、新型コロナウイルス
ウィルスの感染拡大防止に
伴う県総合福祉センターの
貸館利用人数制限や各種感
染対策等を講じるため、これ
までの定員(192名)から
半分の定員(96名)に変更い
たしました。

また、講義時間も1コマ90
分から60分へ時間を短縮し
変更いたします。(特別公開
講座を除く)

- 【火曜日コース 48名】
地域文化学科(16名)
健康福祉学科(16名)
生活環境学科(16名)
- 【木曜日コース 48名】
地域文化学科(16名)
健康福祉学科(16名)
生活環境学科(16名)

ふくし&○○

記念企画 沖縄県社協創立70年

～県社協・広報活動の

歴史をたどる～《後編》

昭和26年11月に誕生した「沖縄群島社会福祉協議会(県社協の前身)」。創立70周年を記念して、前号から続き、今号では後編として、「福祉情報おきなわ」をはじめ、広報紙を中心に県社協・広報活動の歴史を辿ります。

現在の広報紙「福祉情報おきなわ」の誕生

平成3年4月に、現在の新聞紙型となる県社協広報紙「福祉情報おきなわ」が誕生しました。

それまで年4回発行してきた「季刊福祉おきなわ(A5版60頁)」では行えなかった、タイムリーな情報発信のため、月刊情報紙として生まれ変わり、市町村社協や福祉施設・団体等の活動推進に



▲「福祉情報おきなわ」第1号
〔平成3年4月25日発行〕

役立てるために提供されました。

創刊された当初は、月1回、情報量に応じて4～10頁で構成し(第1号は12頁)、県社協・県共募の活動や県外の福祉情報、市町村社協や施設・団体の取り組み等を幅広く伝えてきました。また、敬老の日・老人福祉週間等、福祉関連の催しや県内の各種イベント等の詳細を伝え、県民の福祉に対する意識醸成を図りました。

同紙では、助成金情報や表彰募集等を扱う「よろず案内板」コーナーや、各市町村や福祉施設で展開されている先駆的な取り組みを紹介する「活動前線」のコーナー等、様々な企画が設けられ、県内の福祉活動の活性化を促しました。



▲「活動前線」のコーナー

第38号(平成6年8月)からは、より見やすく、読みやすい仕様にするためB5版からA4版へ、2色刷りから一部カラーへ(後にフルカラーへ)と装いを新たにしました。

同紙の「福祉の話題(街から村から)」のコーナーでは、福祉に関する情報、話題、写真等の寄稿を呼びかけ、時には小学校PTAによる手話の親子教室の取り組みが紹介される等、様々な書き手によって、幅広い福祉活動が紹介されました。

そして、現在、奇数月を発行月(約年6回発行)とする、12頁フルカラーの本紙へと続いています。前号で2000号を数え、1回につき5千部を発行して多くの関係者に提供し、社会福祉の情報発信に努めています。

各種資料やインターネットを活用した広報活動

前号、今号にわたり紹介した広報誌(紙)に限らず、県社協では、各種事業を通じて、多くの調査研究の報告書や事例集、啓発に関する資料等を作成してきました。現在では発行していない「目で見る沖縄の社会福祉」や、周年記念誌も含め、数多くの発行物を世に出してきました。



▲写真上
「目で見る沖縄の社会福祉」
◀写真下
県社協のこれまで発行した記念誌等

また、平成9年6月に立ち上げた「社会福祉情報システム研究委員会」等で、インターネットを活用した県社協ホームページ開設の検討や試験運用を重ね、平成10年4月からは本格的にホームページを開始させ、情報発信の強化を図ってきました。

降、適宜リニューアルしながら、現在のホームページ運用につながっています。

広報活動がめざすもの

県民の福祉の意識醸成は、社協の使命であり、継続した啓発活動が必要です。

また、地域の福祉課題や実態を如実に伝え、改善に向けた「行動」を促していくこと、福祉の考え方を発信していくことが広報活動には大切です。「福祉文化」を創造する基盤になる活動と言っても過言ではありません。

近年、急速に普及したSNS等、インターネットを通じたタイムリーな情報発信も重要性が増しています。あらためて、広報活動を強化していくには、アンテナをはり、時に現場に足を運び、丁寧に課題や現状を捉える「取材力」、メッセージ性を持たせながらリアルな現状を訴えていく「発信力」等、広報に携わる職員の資質が問われているでしょう。

県社協では、県民が福祉の心を持ち、行動を起こしていく原動力となるような広報活動を目指していきます。



民生委員・児童委員を募集しています

民生委員・児童委員は、地域住民の「身近な相談相手」そして行政や関係機関を紹介する「つなぎ役」として、「安心して住み続けることのできる地域社会づくり」に向けたさまざまな取り組みを推進しています。

民生委員・児童委員になるには？

- 概ね30歳以上75歳未満
- 地域福祉活動に賛同し、実際に活動できる方

各市町村から県知事に推薦し、最終的に厚生労働大臣が決定し、民生委員・児童委員として委嘱されます。
(任期は3年で、再任も可能です)



テレビCM等で民生委員を紹介
「ACジャパン支援キャンペーン」

現在、全国民生委員児童委員連合会では、ACジャパンの支援キャンペーンによる広報支援として、民生委員を紹介するテレビCM放映等が行われています。
あなたのまちの「身近な相談相手」である民生委員・児童委員。お困りごとや心配ごとなど、お気軽にご相談ください。

民生委員・児童委員へのご相談や民生委員・児童委員募集については、お住まいの各市町村行政または各市町村民生委員児童委員協議会までお問合せください。

談ください。
そして、あなたも「民生委員・児童委員」として地域で活動してみませんか？

民生委員・児童委員Q&A



Q 民生委員・児童委員になるにあたって、特別な資格や知識が必要ですか？

A 特別な資格や知識は必要ありません。

民生委員・児童委員は、あくまでも地域住民の一員として、住民の「身近な相談相手」となります。困っている人を行政や専門機関へつなぐ「つなぎ役」となります。また、民児協の会議や研修等を通して、必要な学習の機会が確保されています。

Q 民生委員・児童委員は公務員と聞きましたが、給与は支給されるのですか？

A 民生委員・児童委員は特別職の地方公務員ですが、あくまでボランティアであるため、給与は支給されません。ただし、民生委員活動には交通費等がかかりますので、実費弁償として活動費が支給されます。

緊急小口資金等特別貸付の据置期間延長について

緊急小口資金等の特別貸付については、引き続き経済が厳しい状況等を踏まえ、令和4年3月末日まで「据置期間」を延長しておりました。

このたび、厚生労働省より令和4年度からの償還免除の判定等における所得証明書の取得時期や償還事務の手続き等を考慮し、据置期間延長の通知がありましたのでお知らせします。

緊急小口資金

令和4年12月末日迄

総合支援資金(初回)

令和4年12月末日迄

総合支援資金(延長)

令和5年12月末日迄

総合支援資金(再貸付)

令和6年12月末日迄

※既に償還期間を開始している場合は据置期間延長の対象となりません。

※今回の延長については、令和4年3月末日までに貸付決定した場合が対象です。それ以降の決定については措置期間が変更となります。

会員数
約**27.3**万人
(2021年3月現在)

福祉・介護職員の
福利厚生は
ソウェルクラブに
おまかせください

ソウェルクラブ(福利厚生センター)は…

社会福祉事業・介護保険事業に従事する方の福利厚生を全国で展開し、スケールメリットを活かすことにより、個々の法人では実現が難しい充実したサービスを提供しています。

01
加入
メリット

- 職員のリフレッシュやストレス解消
- 職員の就労意欲の向上
- 職員のチームワークの構築
など

02
掛金

職員1人当たり毎年度1万円
※非常勤職員向けに5千円コースも
ご用意しています。

03

ソウェルクラブの
10大
サービス

生活習慣病予防
健診費用助成金

4,000円助成

慶事のお祝い品
(結婚、出産、入学)

1万円または5千円の
商品券を贈呈

弔慰金

- ・会員死亡 **60万円**
(就業中の死亡は180万円)
- ・配偶者死亡 **10万円**

健康生活用品給付

毎年全会員に給付

永年勤続記念品

勤続5~30年(5年刻み)及び
35年以上の退職時に贈呈

資格取得

5千円相当の記念品

各種講習会

受講料・教材費無料

ソウェルクラブ“クラブオフ”

ホテル、レジャー施設、飲食店など
20万件以上の優待サービスが利用可能

クラブ・サークル活動

1人あたり
1,000円助成

会員交流事業
(都道府県ごとの各種イベント)

割安な参加費

資料請求は
こちら

<法人・事業所のご担当者の皆さまへ>

ご希望の方には、ソウェルクラブのサービス内容をコンパクトに
まとめたパンフレットを送付いたしますので、お気軽に下記宛てにご連絡ください。



沖縄県共同募金会へ寄せられたご寄付の団体紹介



みなさんの心温まるご支援・ご協力、
誠にありがとうございます！



赤い羽根共同募金



▲沖縄県金融協会 様



▲具志堅グループ 琉鵬会 様
(歳末たすけあい募金含む)



▲株式会社 琉球銀行 様
(歳末たすけあい募金含む)

株式会社サンエー 様
一般社団法人 沖縄県医師会 様
公益社団法人 農林水産団体共済会 様



▲株式会社 沖縄銀行 様
(歳末たすけあい募金含む)



▲一般社団法人 沖縄県歯科医師会 様

NHK歳末たすけあい募金



▲わらべ保育園 様



▲一般社団法人 沖縄県洋菓子協会 様



▲沖縄県ボウリング場協会 様



▲オキコ株式会社 様



▲沖縄明治乳業 株式会社 様



▲公益社団法人 久米国鼎会 様



▲沖縄製粉 株式会社 様

株式会社丸大 様
セルラー電話株式会社 様



▲沖縄銀行労働組合 様

令和3年7月大雨災害静岡義援金

令和3年7月1日からの大雨により、熱海市他において甚大な被害があり、全国の共同募金会で義援金募集を行いました。

10月31日に受付終了し、県民の皆様から多くの義援金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

義援金については、静岡県市町を通じて被災者へ配分されました。

静岡県共同募金会受入金額 92,409,342円
うち、沖縄県共同募金会受入金額 244,161円



りゅうちゃん 子どもの希望募金

(株)沖縄電力様
(株)沖縄メディコ様
親和トラストグループ様
沖縄ガス(株)様
琉球海運(株)様
沖縄明治乳業(株)様
味自満チェーン様



【非営利団体等】

No.	市町村	団体名	事業名	内定額 (円)
1	読谷村	(一社)おきなわ子ども未来ネットワーク	若年妊産婦宿泊型居場所事業	200,000
2	浦添市	(一社)ある	青少年のシェルター保護と退所後の生活つなぎ支援	200,000
3	那覇市	共育ステーションつむぎ	ベビーミルク支援プロジェクト	200,000
4	那覇市	(特非)困窮者支援ネットワーク	生活困難な世帯に無料弁当配布事業	200,000
5	宜野湾市	宜野湾子どもゲンキ食堂	無料弁当配布、毎朝無料朝食提供、各種イベント事業	200,000
6	宜野湾市	にじいろのゾウ	弁当の無料配布	140,000
7	宜野湾市	地域むすびくらぶ	フードパントリーmam	200,000
8	那覇市	ゆいまーるの会	ゆいまーる事業	200,000
9	豊見城市	(特非)ゆい・ハート福祉会	生活支援活動	200,000
10	沖縄市	みんなのあそびば	Yume's Smile Kitchen～みんなのあそびば～	200,000
11	那覇市	(一社)タコライ斯拉バーズ	みらいチケット普及事業	200,000
12	那覇市	女性を元気にする会	食料支援で繋ごう！笑顔で一歩前進！！	200,000
13	那覇市	沖縄県事業所協議会	障害者虐待防止、権利擁護研修	26,000

【児童養護施設等】

No.	市町村	団体名	事業名	内定額 (円)
1	名護市	児童養護施設なごみ	里親・児童養護施設入居児童支度金	100,000
2	沖縄市	児童養護施設美さと児童園	里親・児童養護施設入居児童支度金	250,000
3	那覇市	児童養護施設沖縄県立石嶺児童園	里親・児童養護施設入居児童支度金	450,000
4	与那原町	児童養護施設愛隣園	里親・児童養護施設入居児童支度金	50,000
5	南城市	児童養護施設島添の丘	里親・児童養護施設入居児童支度金	100,000
6	糸満市	児童養護施設青雲寮	里親・児童養護施設入居児童支度金	100,000
7	宮古島市	児童養護施設漲水学園	里親・児童養護施設入居児童支度金	50,000
8	石垣市	児童養護施設ならさ	里親・児童養護施設入居児童支度金	50,000
9	那覇市	沖縄県里親会	里親・児童養護施設入居児童支度金	500,000

【小規模離島社協】

No.	市町村	団体名	事業名	内定額 (円)
1	伊平屋村	伊平屋村社会福祉協議会	高齢者(33)、障害者(10)、低所得者(4)(一人5千円)	235,000
2	渡嘉敷村	渡嘉敷村社会福祉協議会	高齢者(5)、障害者(3)、低所得者(1)(一人5千円)	45,000
3	座間味村	座間味村社会福祉協議会	高齢者(16)、障害者(2)(一人5千円)	90,000
4	粟国村	粟国村社会福祉協議会	高齢者(21)、障害者(5)(一人5千円)	130,000
5	渡名喜村	渡名喜村社会福祉協議会	高齢者(40)、障害者(7)、児童(2)、低所得者(1)(一人5千円)	250,000
6	南大東村	南大東村社会福祉協議会	高齢者(6)、障害者(1)、児童(1)、低所得者(6)(一人5千円)	60,000
7	北大東村	北大東村社会福祉協議会	高齢者(4)、児童(5)、低所得者(1)(一人5千円)	50,000
8	多良間村	多良間村社会福祉協議会	高齢者(22)、障害者(5)、児童(5)、低所得者(4)(一人5千円)	180,000

12月27日に沖縄県総合福祉センターにて、歳末たすけあい内定通知書交付式を行いました。昨年に引き続き、コロナ禍により県内の経済状況も厳しい中ではありますが、12月に実施したNHK歳末たすけあい運動へ、たくさんの県民、企業団体から心温まるご寄付が寄せられました。

NHK歳末たすけあい募金(本会受付分)にいただいた浄財は、県内13団体への助成金、児童養護施設(9施設)の就学・就職に必要な支度金・県内離島町村(8町村)の支援を必要とする困窮世帯への見舞金として合計505万6千円を配分しました。ご協力いただきありがとうございました。

令和3年度NHK歳末たすけあい募金

30施設・団体へ配分しました



▲NHK歳末たすけあい内定通知書交付式の様子



令和5年度事業（一部令和4年度）に要する
「民間福祉資金要望調書」の受付について

民間福祉資金の効率的活用を図るため、令和5年度（一部令和4年度）に各福祉団体が計画している事業に係る、民間福祉資金要望調書を沖縄県共同募金会が窓口となり受付します。（概要は左記表のとおり）

要望調書の申請受付にあたっては、3月下旬より沖縄県共同募金会ホームページに詳細を掲載しますのでご確認ください。（提出期限は令和4年4月30日予定）

令和5年度（一部令和4年度）民間福祉資金 募集要綱			
資金種別	対象年度	対象事業	対象団体
中央競馬馬主社会福祉財団	令和4年度	障がい者（児）・老人・母子及び児童福祉事業にかかる車両整備・備品整備・施設整備など	社会福祉法人（市町村社協は原則対象外）、公益財団法人、公益財団法人、NPO等
赤い羽根共同募金（一般）	令和5年度	地域の福祉課題を解決する為の事業で、厚生保護事業、研修会、大会開催・派遣等、施設・環境・車両・備品整備など	社会福祉法人 公益法人 一般社団・財団法人 NPO等
沖縄県社会福祉振興基金	令和5年度	社会福祉団体の活動、研修事業等	社会福祉法人、公益法人、一般社団・財団法人、NPO等

～沖縄県共同募金会からのご案内～

特定の社会福祉法人への寄附をお考えの皆様へ
社会福祉施設の建設、備品などの整備のための資金が必要な法人さまへ

「受配者指定寄附金制度」をご存知ですか

社会福祉法人など特定の受配者（寄附を受ける法人）を指定した寄付にも、「**一定の要件**」をみたせば、「**税制上の優遇措置**」を受けることができます。

「一定の要件」とは

- ① 受配者は、社会福祉事業または更生保護事業を行う法人であること
- ② 寄附金の使途は次のいずれかに該当すること
 - ・ 土地購入費、借地料
 - ・ 施設の新築・増築・改築・改修等工事費、土地造成等の土木工事費、設備・備品の整備
 - ・ 独立行政法人福祉医療機構又は金融機関からの借入金の償還
- ③ 緊急に資金が必要であること
- ④ 共同募金会の審査において認められたものであること



「税制上の優遇措置」とは

- ① 個人の寄附の場合、所得税については所得控除または税額控除、また個人住民税については税額控除の対象となります。（2千円を超える額）
- ② 企業など法人の寄附の場合、法人の課税対象となる所得から、その法人が支出した寄附金額の全額が、一般寄付金の損金算入限度額および特別損金算入限度額の枠とは別に控除されます。

※詳しくは、沖縄県共同募金会へお問合せください。

☎098-882-4353

【受配者指定寄附のながれ】



寄附・寄贈者芳名(10月1日～1月31日) 御寄附・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。



▲富国生命保険相互会社 沖縄支社様 (11.9)
【写真左から2人目】富国生命相互会社 沖縄支社 支社長 朝倉 直也 様
【写真左から1人目】
同社 営業次長 上原 正美 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲沖縄通信ネットワーク株式会社様 (10.26)
【写真左から3人目】沖縄通信ネットワーク 株式会社 代表取締役社長 仲和 正和 様
【写真左から2人目】同社 総務部 総務グループリーダー 安慶名 武夫 様
【写真左から1人目】同社 総務部 総務グループ 糸満 順子 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲公益財団法人沖縄県防犯協会連合会 (10.26)
【写真左から2人目】沖縄県防犯協会連合会 専務理事 伊波 行一 様
【写真左から1人目】
同会 総務課長 上間 孝 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲小日山 幸子 様(10.22)
【写真左から1人目】小日山 幸子 様
【写真右から2人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治
【写真右から1人目】
本会 事務局長 高良 正樹



▲おきでんグループボランティア 互助会様(12.7)
【写真左から2人目】おきでんグループ ボランティア互助会 理事長/沖縄電力 株式会社 総務部 部長 徳村 勇人 様
【写真左から1人目】
同会 事務局/同社 総務部 労務給与グループ マネージャー 前田 洋子 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲糸嶺 篤秀 様(12.7)
【写真左から2人目】糸嶺 篤秀 様
【写真左から1人目】糸嶺 正美 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲一般社団法人沖縄県電気管工事業 協会青年部会様(11.24)
【写真左から3人目】沖縄県電気管工事 業協会 青年部会 部長 新垣 昌彦 様
【写真左から2人目】
同会 副部長 仲間 幹 様
【写真左から1人目】
同会 事務局 知念 徹 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲株式会社サンレー様(11.30)
【写真左から2人目】株式会社サンレー 代表取締役社長 佐久間 康弘 様
【写真左から1人目】同社 取締役 沖縄 本部長 小久保 達美 様
【写真右から1人目】
同社 管理部部長 横木 大輔 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀



▲ladybird 沖縄キリスト教学院大学・ 学生ボランティア様(1.27)
【写真左から2人目】
Ladybird メンバー 當真 千紗 様
【写真左から1人目】
Ladybird メンバー 徳元 京花 様
【写真右から2人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治
【写真右から1人目】
本会 専務局長 高良 正樹



▲オリオンビール株式会社様(1.5)
【写真左から2人目】オリオンビール株式 会社 代表取締役社長兼執行役員社長 CEO 村野 一 様
【写真左から1人目】同社 人事総務本部 総務課長 嘉手刈 啓 様
【写真右から1人目】
沖縄県立石嶺児童園 園長/沖縄県児 童養護協議会 会長 上原 裕 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀



▲沖縄ガス株式会社様(12.24)
【写真左から2人目】沖縄ガス株式会社 総務部長 野崎 洋一 様
【写真左から1人目】
同社 総務課主任 諸喜田 誠 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲合資会社沖縄実業様(12.23)
【写真左から2人目】合資会社沖縄実業 支配人 宮里 研作 様
【写真左から1人目】同社 経営企画室 センター室長 藤本 勲 様
【写真右から3番目】
県子ども生活福祉部長 名渡山 晶子 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治

本の紹介

子どもSDGs 著者：秋山 宏次郎 出版社：株式会社カンゼン
★なぜSDGsが必要なのかがわかる本★

SDGs(エスディージーズ)とは、国連が定めた 2030 年までに世界の 人々が達成しなければならない 17 の目標のことです。

未来を担う子どもたちに対し、SDGsと世界が直面する解決すべき問題 や私たちの生活との関連性などについてわかりやすく解説されています。

この本を読まれて「自分ごと」として、SDGsを考えてみませんか？

※本会への寄附について は、税制上の優遇措置 が受けられます。詳しく は総務企画部まで

- 沖縄生麺協同組合 様
- 湧川運輸株式会社 様
- 株式会社目加田経営 事務所 様
- 公益社団法人沖縄県 宅地建物取引業協会 様

「お庭では、芙蓉・ペチュニア ぼっぼつ花(千日紅)という ピンクの花が見頃で、たくさ んの野菜たちが匂を迎えて いる」とにこやかに教えてく れました(かりゆし長寿大 学校 26 期生)

金城幸子さん(83)は、平成 19 年から通い始めた絵のサー クルをきっかけに絵画を始め ました。今では日本画の水彩 画・水墨画も描くそうです。

今回の作品『霊峰富士』は、 昭和56年8月に子ども達と合 目まで登った時にとらえた 風景を描いたもの。「下から 見上げた日本を代表する山 『富士』への憧れの気持ちや、 日本人の心の拠り所として 存在する様を描きたいと強 く思った」と、描くに至った動 機を話してくれました。

「体を動かすのが大好き」と 言う金城さん。毎日の ウォーキングに社交ダンス、 琉舞と色々なことに挑戦され ています。生け花等、美に対 する趣味も絵に繋がっている ようです。読書や琉歌・短歌 と、日常に芸術が溢れている ようでした。

表紙の作品
作品名『霊峰富士』

作成者：金城 幸子 さん